

2022/7/10

ヨハネの黙示録 講解メッセージ⑩

『ヨハネの黙示録 5章 ―イエスが来られる時―』

■終わりの日の神の計画

「また、私は、御座にすわっておられる方の右の手に巻き物があるのを見た。それは内側にも外側にも文字が書きしるされ、七つの封印で封じられていた。」
(黙示録 5:1)

ヨハネの黙示録は、すべて象徴を使って表現されています。まず「御座にすわっておられる方」とは、神を指します。そして、その右手にある「巻き物」には、終末に起きる出来事が記されています。それは、言い換えれば、神の御計画です。文字は完全を表し、その計画が正しいことの象徴です。それが「封印されていた」とは、その計画を実行できる者がいなかったということです。

「また私は、ひとりの強い御使いが、大声でふれ広めて、「巻き物を開いて、封印を解くのにふさわしい者はだれか。」と言っているのを見た。しかし、天にも、地にも、地の下にも、だれひとりその巻き物を開くことのできる者はなく、見ることのできる者もいなかった。巻き物を開くのに、見るのに、ふさわしい者がだれも見つからなかったので、私は激しく泣いていた。すると、長老のひとりが、私に言った。「泣いてはいけない。見なさい。ユダ族から出たしし、ダビデの根が勝利を得たので、その巻き物を開いて、七つの封印を解くことができます。」(黙示録 5:2-5)

御使いが立ち上がり、「この神の計画を実行するのは誰か」と大声で言っています。神のまわりにいる「4つの生き物と24人の長老たち」は、神の被造物を表しており、御使いはこの被造物に対して叫びましたが、神の計画を実行できる者はどこにもいませんでした。ヨハネは、せつかく神の計画があるのに実行できる者がいないのを見て、激しく泣きました。

しかし、ここで素晴らしいことが起こります。イエス・キリストの現れです。これは、創世記で次のように語られている出来事です。

「ヤコブはその子らと呼び寄せて言った。「集まりなさい。私は終わりの日に、あなたがたに起こることを告げよう。」」（創世記 49:1）

「ユダは獅子の子。わが子よ。あなたは獲物によって成長する。雄獅子のように、また雌獅子のように、彼はうずくまり、身を伏せる。だれがこれを起こすことができようか。王権はユダを離れず、統治者の杖はその足の間を離れることはない。ついにはシロが来て、国々の民は彼に従う。」（創世記 49:9-10）

ヨハネと同様に、ヤコブに対しても、終わりの日に起こることを告げられています。ヨハネの黙示録は、このことのおさらいです。

では、神の計画とはどのようなものだったのでしょうか。

「神である主は蛇に仰せられた。「おまえが、こんな事をしたので、おまえは、あらゆる家畜、あらゆる野の獣よりものろわれる。おまえは、一生、腹ばいで歩き、ちりを食べなければならない。わたしは、おまえと女との間に、また、おまえの子孫と女の子孫との間に、敵意を置く。彼は、おまえの頭を踏み砕き、おまえは、彼のかかとかみつく。」」（創世記 3:14-15）

「蛇」は悪魔の象徴です。つまり、神の計画は、悪魔を滅ぼす計画です。神と私たちを断絶する壁となる死を持ち込んだ悪魔を滅ぼし、神が初めに造った世界に戻そうというのです。

「わたしは、わたしの契約を、わたしとあなたとの間に、そしてあなたの後のあなたの子孫との間に、代々にわたる永遠の契約として立てる。わたしがあなたの神、あなたの後の子孫の神となるためである。わたしは、あなたが滞在している地、すなわちカナンの全土を、あなたとあなたの後のあなたの子孫に永遠の所有として与える。わたしは、彼らの神となる。」（創世記 17:7-8）

神の計画の第一番目は、「あなたの神となり、あなたの子孫の神となる」、すなわち、神と断絶していた私たちと再び結び合い、私たちがまことの神を知るようにするということです。第二番目は、「あなたが滞在している地をあなたの所有として与える」計画です。私たちが暮らしている地は、愛の地です。神は私たちをご自分のいのちで造られました。神は愛です。しかし、私たちは愛という地に暮らしていながら、それを

所有していません。私たちは人を愛したくても愛せません。神の計画は、私たちが神を愛し、人を愛せるようにすることです。

神は、悪魔を滅ぼすことで私たちの中に入り込んだ死を滅ぼし、私たちが愛を所有できるようにするという計画を持っておられるのです。その計画を実行に移すユダ族のしし、すなわちイエス・キリストが立ち上がったということです。

■ほふられた小羊

「さらに私は、御座——そこには、四つの生き物がいる。——と、長老たちとの間に、ほふられたと見える小羊が立っているのを見た。これに七つの角と七つの目があった。その目は、全世界に遣わされた神の七つの御霊である。小羊は近づいて、御座にすわる方の右の手から、巻き物を受け取った。彼が巻き物を受け取ったとき、四つの生き物と二十四人の長老は、おのおの、立琴と、香のいっぱいはいった金の鉢とを持って、小羊の前にひれ伏した。この香は聖徒たちの祈りである。」（黙示録 5:6-8）

「ほふられた」とは、切り裂かれるという意味です。ほふられたと見える小羊とは、十字架のイエス・キリストのことです。御国のイエス様は、地上でのイエス様のお姿とは異なりましたが、ヨハネにはそのように見えたということです。「七つの角と七つの目」とは、ゼカリヤ書にある表現で、全地を見通す目を持っておられる方を表しています。七つの御霊とは聖霊のことです。つまり、イエス・キリストは全世界を見渡すことができ、聖霊がいつも共におられるということです。そのイエス・キリストが、父なる神から神の計画を受け取りました。すると、被造物たちは、いよいよ待ち望んでいた終わりの時が来たことを知りました。

「彼らは、新しい歌を歌って言った。「あなたは、巻き物を受け取って、その封印を解くのにふさわしい方です。あなたは、ほふられて、その血により、あらゆる部族、国語、民族、国民の中から、神のために人々を贖い、私たちの神のために、この人々を王とし、祭司とされました。彼らは地上を治めるのです。」」（黙示録 5:9-10）

ここで、イエス・キリストがなさがることが語られています。

神の贖いによって、イスラエルのみならず、すべての国から人々が呼び集められ、

キリストの体なる教会が建て上げられます。イスラエルは神の律法を託されましたが、律法を守ることで救われると勘違いをしてしまいました。神は彼らに対して、あなた方が優れているから律法を託したわけではない、傲慢になってはいけないと繰り返し教えられましたが、彼らは律法を守る我々だけが救われるのだと勘違いしてしまったのです。イエス・キリストは、その間違いを訂正することをここに示しています。神が人を救うのであって、行いによって救われるわけではありません。

イエス・キリストは、律法を終わらせるために来られました。律法の行いとは関係なく、あらゆる部族の人々を、ご自分の十字架の血潮によって救ってくださるのです。この恵みを受け取って、イエス・キリストを拒まないで信じた者がクリスチャンとなり、教会を治めていくこととなります。

「キリストが律法を終わらせられたので、信じる人はみな義と認められるのです。」(ローマ 10:4)

「人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。」(ローマ 10:10)

聖書はこう言っています。「彼に信頼する者は、失望させられることがない。」ユダヤ人とギリシヤ人との区別はありません。同じ主が、すべての人の主であり、主を呼び求めるすべての人に対して恵み深くあられるからです。「主の御名を呼び求める者は、だれでも救われる。」のです。(ローマ 10:12-13)

人は心の中で神の呼びかけに応答し、告白を通して救われたという自覚に至ります。神の前には、人種も行いも関係ありません。神の呼びかけを聞き、神にしがみつくる者は誰でも救われるのです。救われた人たちは、神によって終わりの日を迎えた人たちということになります。その救われた者を、神が集める場所が教会です。

「また私は見た。私は、御座と生き物と長老たちとの回りに、多くの御使いたちの声を聞いた。その数は万の幾万倍、千の幾千倍であった。彼らは大声で言った。「ほふられた小羊は、力と、富と、知恵と、勢いと、誉れと、栄光と、賛美を受けるにふさわしい方です。」(黙示 5:11-12)

ほふられた小羊とは、十字架につけられたイエス・キリストのことです。十字架の苦しみを「ほふられる」という言葉で表しています。苦しみを味わうということは、

言い方を変えると、「弱さを知る」ということです。つまり、弱さを知った者こそ、神の恵みを受けるにふさわしいのです。なぜなら、そこに神の恵みが働くからです。

ですから、私たちに神の恵みが働くために、私たちは苦しみも受け取ります。しかし、それはイエス・キリストの苦しみとは少し質が違います。いったいどのような苦しみなのでしょうか。

■恵みが働くために受ける苦しみ

私たちは今、神を知りながら神が見えないという不安の中にあります。神は愛であり永遠です。私たちは神のいのちを持っているので、永遠に生きるといういのちを知っていますが、この世界では永遠に生きることはできず、肉体の死が待っています。また、神は自由ですから、私たちは自由を思い描くことができますが、この世界には制約があります。つまり、この世界には私たちが知っている神がないので、人は神に近い姿を偶像として拝み、神を求めようとして生きています。それは宗教に限ったものではなく、理想とする人物や、お金や人など自分に自由を与えてくれるものなど、人によってさまざまなものが偶像になります。しかし、何を礼拝しても、それが永遠のいのちを与えることはできません。私たちはこの世界から脱出することはできず、それでも神を求めているというジレンマの中で生きています。

しかし、神の恵みにより、私たちはイエス・キリストを知りました。それは、この闇の世界を照らす強力な光です。この世界は私たちが滅びに導く闇です。世界の歴史を見ると様々なことが起こったように思えますが、実はすべて一つの方向に向かっていきます。それは、私たちが虚無に服させるということです。つまり、何を手にしようとも、すべて失ってしまうということです。健康も富も名誉も失われ、最後は孤独になります。それが肉体の死です。私たちは何をしようともこの方向に向かっており、この死の恐怖の奴隷として生きています。イエス・キリストを知ったことで光を知った私たちは、そのことに気づかされてしまいました。この強力な光は闇を完全に排除しようとしています。これが苦しみなのです。

私たちが、この世という闇にしがみつこうとすると、失望し挫折し、この世から引きはがされてしまいます。誰が引きはがすのでしょうか。神です。私たちの苦しみの本当の原因は、この世から引きはがされることなのです。この世にしがみついてこの世の平安を得ようとするのが罪の土台です。光があなたの罪を明らかにし、握っているものを手放し、神を信頼せよと迫られます。そうすると私たちはこの世に絶望するしかなくなります。光と出会ったことで、私たちはこの苦しみを味わうことになってしまったのです。しかし、この苦しみを知るとき、実は神の恵みがそこにあふれて

いるのです。

神は永遠なる方ですから、この有限の世界に姿を現すことはできません。私たちが神と出会うことのできる瞬間、それは、私たちが苦しみを覚えるとき、そして、自分の弱さに気づくときです。この世界から切り離されてもうどうすることもできないと思うとき、それが神と本気で出会うチャンスなのです。

もし私たちが罪人でなければ、私たちは一生神と出会うことはなかったでしょう。もし私たちが永遠に生きるものであったなら、神はあなたを助ける必要はなかったでしょう。しかし私たちは罪人であり、死が私たちを待っています。そんな私たちはこの世界にしがみついで生きていますから、それを失うことを本当に苦しくつらく思います。でもその時こそが、真に神と出会うチャンスなのです。

「ほふられた小羊は賛美を受けるにふさわしい」とは、「苦しみの中にある者は神と出会える」「弱さの中にこそ神の恵みと力が働く」というメッセージを送っています。

「しかし、主は、「わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現われるからである。」と言われたのです。ですから、私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。」(Ⅱコリント 12:9)

誰もが自分の強さを誇ります。それを通して安心しようとしているからです。しかし、それは間違いです。私たちの安心の根拠は、自分が弱い者であることです。ここに私たちと神様との接点があるのです。つらさや苦しみを感じる時、それは神がこの世界からあなたを引き離そうとしているときです。その時には、神に助けを求めましょう。

パウロは、自分は善を行いたいのに実行できない、みじめな人間だと告白しました。しかし、それと同時に、どうすることもできない自分の弱さに感謝するとも言っています。なぜなら、神の恵みは弱さのうちに働くことを知り、その時こそ強い自分になれることを知ったからです。

■終わりの日を迎える

「また私は、天と地と、地の下と、海の上のあらゆる造られたもの、およびその中にある生き物がこう言うのを聞いた。「御座にすわる方と、小羊とに、賛美と誉れと栄光と力が永遠にあるように。」また、四つの生き物はアーメンと言い、長老たちはひれ伏して拝んだ。」(黙示録 5:13-14)

人間だけでなく、すべての被造物が、ほふられた小羊を見て、私たちが待ち望んでいた方が来られたと感謝をささげました。光として来られたイエス・キリストにより、この世界は闇と光が完全に区別されるようになり、いよいよ終わりの日が始まったのです。

光があるから闇の存在が明らかになり、そこに戦いが起こります。これが葛藤であり、患難です。闇の中にいたのでは、争いは起こりません。しかし、光は私たちが闇から引き離そうとします。これが苦しみとなるのです。

「被造物も、切実な思いで神の子どもたちの現われを待ち望んでいるのです。それは、被造物が虚無に服したのが自分の意志ではなく、服従させた方によるのであって、望みがあるからです。被造物自体も、滅びの束縛から解放され、神の子どもたちの栄光の自由の中に入れられます。私たちは、被造物全体が今に至るまで、ともにうめきともに産みの苦しみをしていることを知っています。」（ローマ 8:19-22）

被造物が虚無に服したのは、自分たちの意思ではなく、悪魔の仕業です。それゆえ、私たちは皆、再び神の子どもとして神との関係を取り戻すことを待ち望んでいるのです。そのためにイエス・キリストが立ち上がられたわけです。ですから、私たちが苦しむのは、イエス・キリストを待ち望んでいる証です。苦しいとき、私たちはイエス・キリストと出会うことができます。そして、イエス・キリストしっかりと持っているがゆえに、次は、この世界にしがみつこうとすればするほど苦しくなるというわけなのです。

「小さい者たちよ。今は終わりの時です。あなたがたが反キリストの来ることを聞いていたとおり、今や多くの反キリストが現われています。それによって、今は終わりの時であることがわかります。」（I ヨハネ 2:18）

反キリストとは、神の力に反抗する力のことです。具体的には、苦しみ、死を指します。死の恐怖を覚えるのは、今は終わりの時であり、救いの時であり、恵みの時だからです。苦しみがあるから、今は終わりの時であることがわかるのです。つまり、今はイエス・キリストが立ち上がっているときだということです。こうして私たちはイエス・キリストと出会うことができるのです。